

## 水コン協九州支部と災害時協定締結

北九州市  
上下水道局  
情報共有など平常時から連携強化し

北九州市上下水道局は、3月29日に全国上下水道コンサルタント協会九州支部と「災害時における上下水道施設の技術支援協力に関する協定」を締結した。

水コン協九州支部の熊本震災における支援活動の実績を受け、同局は今年1月に諫山修・局長(当時)を始め、幹部職員が水コン協九州支部会

員企業と意見交換会を実施。大規模災害などの支援の在り方を巡って活発な議論を行うとともに支援協定締結に向けた協議を深め、3月末に上下水道事業を一体とした基本協定の締結となった。

基本協定では災害時のみならず、情報共有の項目も設け、情報伝達訓練の実施を明記するなど平常時からの緊密な連携を

保つこととしている。北九州市域には、東西二本の活断層が南北にあり、集中豪雨による浸水被害も発生している。上下水道局は大規模災害に備えた危機管理の一環として、市民生活に直結した生活インフラである上下水道施設の早期復旧を

目指し、全国の事業者や関連団体、民間企業などとの連携強化を進めている。

る。

一方、水コン協九州支部は、先の熊本地震で災害支援協定締結による初めでの支援活動を実施し、熊本市から実施本部の設置、連携体制、活動実績が高く評価された。

今回の協定締結に対し、諫山前局長は「北九州市は、熊本地震発生直後から上下水道分野の支援活動に職員を派遣し、応急給水や応急復旧などの災害支援を行ってきた。被災都市では、上下水道施設の被災状況調査、復旧に向けた工法の選定、災害査定設計書の

作成など、水コン協九州支部の支援を受け短期間で効率よく実施出来たと聞いている。今回の支援を通して感じたことの一つとして、被災した上下水道施設の早期復旧にむけた調査、設計業務などの体制を構築するには、水コン協との災害時支援協定が不可欠である。本協定により訓練などを通じて継続的に情報交換を行うことで、上下水道一体となった災害対応能力のより一層の充実が図られることになる」と意義を述べた。

水コン協九州支部長の

松尾禎泰・松尾設計社長は「今回の災害支援協定締結に際して、北九州市上下水道局の関係者の方々と具体的な活動の在り方について、幅広く議論をさせていただいた。共通のイメージを共有し、基本協定の締結に至ったことは、非常に有意義なことだ。当九州支部は、熊本震災の支援活動実績を総括し、今回の支援協定締結を踏まえ、今後は、主要都市との支援の在り方などについて、さらに検討していきたい」と語っていた。

と語っていた。